人と社会を技術でつなぎ、
心弾む未来を実現する

2026年３月期上期
決算説明会

2025年12月４日（木）
株式会社パイオラックス
（コード：5988）
代表取締役社長　山田 聡

人と社会を技術でつなぎ、
心弾む未来を実現する

目次

1. 中長期目標／2026年３月期第２四半期決算

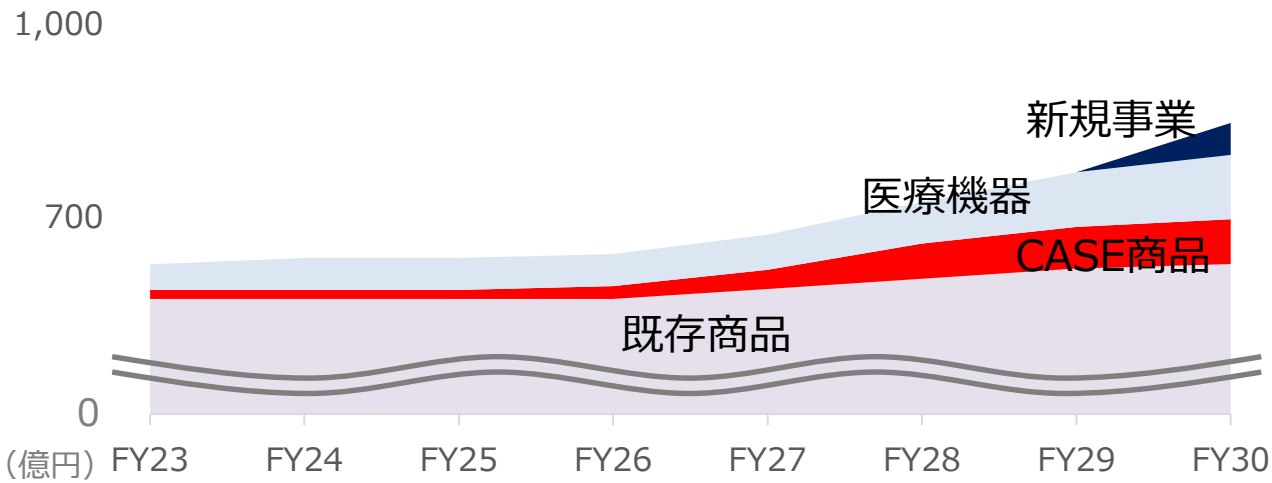
2. 医療機器事業

3. 資本政策

中長期目標

- ✓ FY25は、主要OEMの動向を踏まえ、厳しい事業環境が継続
- ✓ FY26以降は、既存商品群の枠組みを超えた商品開発、組織体制の見直しによる効率化、新真岡工場稼働による生産性の向上等の効果で、FY27にROE８％以上を達成する

単位：億円	FY24 実績	FY25 見込	FY26	FY27	FY30
売上高	633	620	660	690	850
営業利益	23	21	46	63	90
営業利益率	3.8%	3.4%	7.0%	9.1%	10.6%
当期純利益	18	12	36	48	66



- ■ 既存商品：海外、開閉部品を中心に成長
- ■ CASE商品：バスバー、ADAS部品を中心に成長
- ■ 医療機器：海外市場での成長を加速
- ■ 新規事業：専任部門でフィジビリティスタディ中

All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

FY25上期　連結決算サマリー

- ✓ 上期：前年同期比で減収減益だが、計画比では概ね計画通りで着地
- ✓ 下期：経費抑制、徹底した合理化、客先からの回収を進めて利益を確保

単位：億円	FY24 上期実績	FY25 上期実績	増減	FY25 見込
売上	**319**	**300**	**▲19**	**620**
自動車	293	275	▲18	568
医療	26	25	▲1	52
営業利益	**12.7**	**8.4**	**▲4.2**	**21**
自動車 ※	16	13	▲3	20
医療 ※	2	0.8	▲1.2	1
営業利益率	**4.0%**	**2.8%**	**▲1.2%**	**3.4%**
自動車	5.5%	4.7%	▲0.8%	3.5%
医療	8.6%	3.3%	▲5.3%	1.9%
当期純利益	**12.3**	**4.4**	▲7.9	12
ドル円レート	153.88円	147.54円	-	148.00円

※ セグメント間の調整前の利益

日産、ホンダの減産影響を受け、日本、米国、欧州等で減益。一方で中国は生産再配置の進展と中華系OEMへの拡販が奏功し反転の兆し。

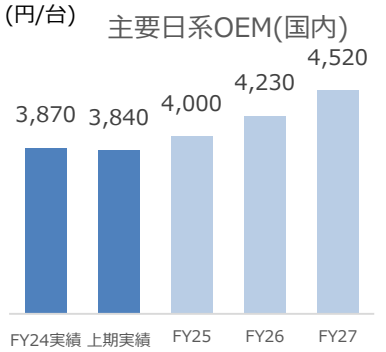
グローバル拡販計画

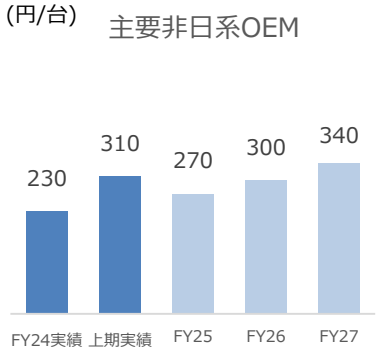
✓ 上期目標を過達

	上期実績	上期計画	通期計画
既存商品	29	28	70
CASE商品	4.5	2.9	10
合計	34億円	31億円	80億円

台当たり搭載金額の計画

✓ 主要日系はOEMの車種構成比の変動により微減





All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

商品戦略

既存技術とCASE化によって変化する市場ニーズを捉え高付加価値商品の創出

既存商品

ファスナー

- **現在大多数の日系OEM、Tier1の新車で流用されており安定した基盤を有する**
- **「つなぐ」「とめる」という機能性を進化させ、従来の枠組みを超えた新しい商品開発にも取り組んでいく**
- 樹脂と金属の一貫生産技術を駆使した商品開発により、単価アップと商品幅拡大を図る（ギガキャストやサステナブル対応のクリップ等）

開閉機構

- **高い競争力を有し、日系非日系問わず引き合いが多い**
- **北米で電動ラッチ（グローブボックス電動機構）を受注**
  今後は他車種へのシリーズ展開や日系OEMへの水平展開を計画
- **従来の可動する複合部品設計技術にアクチュエーター技術を融合、高付加価値化による競争優位性を確保**。非自動車分野への展開も進める
- 展示会出展の日本プラストのコンソールボックスに当社部品が内蔵

Fluid Controls

- **燃料系部品は、世界的なPHEVの増加で2045年頃まで需要は継続見込み**
- **燃料バルブの改良で日産、マツダの商圏を維持、他日系OEMでも売上アップを図り残存者利益を確保**
- スズキ向けのバルブ類は安定したシェアを有し、インドの法規制に伴い更なる売上拡大余地を見込む

駆動系

- **電動化により中長期的には需要減少傾向だが、短期的なビジネスチャンスを確実に捉える**
- 北米では日系がHEVの燃費向上としてトランスミッション開発を進めており、既存品もニーズがある
- PHEV開発を急ぐ中華系OEMからの需要増加を見込む

CASE対応商品

- **CASE化の進展に伴い、今後更なる需要拡大が見込まれる**
- **バスバー：**フォーミング／プレスの多様な工法に対応可能で受注に向けた活発に活動中
- **ADAS関連部品：**中華系OEM向け、インド現地にてADASブラケットを初受注。引き続き拡販に注力

従来技術を組み合わせた新商品

- **ファスナーの締結技術と開閉機構の複合部品設計技術を組み合わせ現代起亜との共同開発によるオープンソース部品（多目的フック）の商品化を実現**
- 今後、韓国、インドを中心にグローバル拡販を目指す

組織改革

商品開発本部による開発体制

従来の事業部制からグループ全体で商品開発できる機能別組織に変更。商品開発の加速化、高付加価値商品の創出を図る。

主な取り組み

拠点設計者を再配置し、お客様ニーズの早期入手による早期提案を実施中。共創活動強化や人事異動による人員や技術の交流をはじめ、組織力の向上を推進。

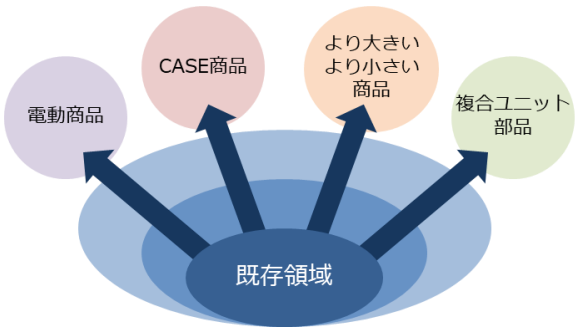
All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

従来技術を組み合わせた商品開発

新商品開発のポイント

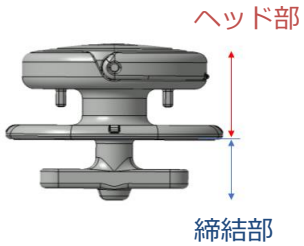
ー 事業部の枠を超えて「つなぐ」を進化させ、エンドユーザーとも「つながる」 ー

- 従来手掛けなかった**商品サイズへの挑戦**　“手のひらサイズから、その先へ”
- 車内の見えない部品だけでなく**見える部品**もつなぐ　“Behind から Between へ”
- 高付加価値の**複合ユニット部品**
- **電動化の影響を受けにくい**内装領域



現代起亜共同開発のオープンソースフック（多目的フック）

- 当社韓国拠点と現代起亜で共同開発した中型の複合ユニット部品
- 車内を自由に活用できる「アクセサリー利用環境」を構築し、ライフスタイルや車両用途の多様化に対応
- 締結部の寸法と形状を公開、ヘッド部は用途に応じて開発可能



様々な商品を“つなぐ”ことが可能

All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

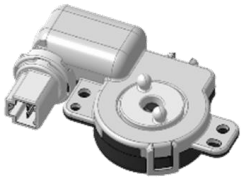
CASE対応商品

✓ 上期拡販目標は達成、FY30売上高100億円の実現には更なる拡販や商品技術開発が必要であり、リソースを投入して取り組みを加速させる

電動ラッチ

グローブボックス等に使用される電動機構。動作時の静粛性、タッチパネル操作が可能でドアやウィンドウ等と連動し操作性に優れる

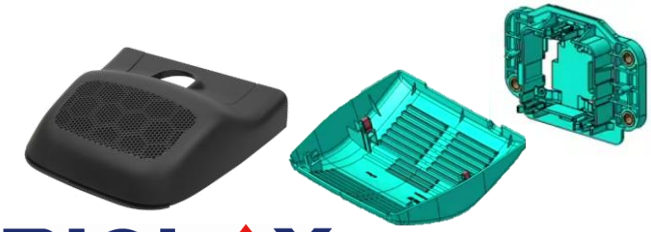
➢ **非日系で受注済、順次同ブランドで拡大予定。**
日系からも引き合いあり

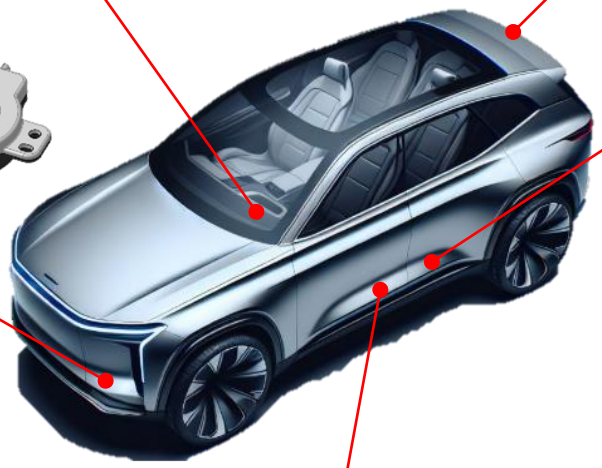


ADAS関連 <FY30目標：売上20億円>

先進運転支援システムに搭載される各種デバイスと車体を締結する部品。カメラ、センサー、ソナーを車体に固定する為のブラケット等

➢ **中華系、インド現地にてADASブラケットを初受注**





バッテリー冷却配管用ジョイント

セル同士の位置ずれやばらつきを吸収するジョイント部品

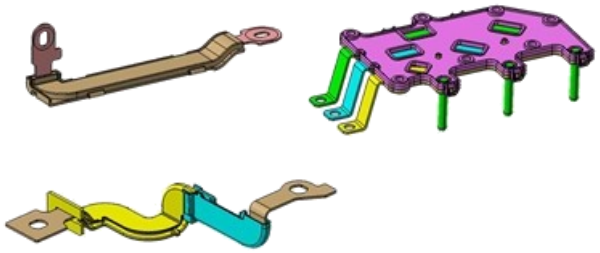
減衰ストッパー

現在主流のダイナミックダンパーと比べて圧倒的に軽量、静粛性が高く、安価

バスバー <FY30目標：売上25億円>

電源から複数の出力に電力を分配する為の銅製またはアルミ製の部品。従来品と比べて配線の自由度が高く、省スペースで効率的

➢ **バスバー戦略の更なる検討実施。**現状のプレスバスバー対応でOEMの認知度を高めると共にフォーミング技術等の活用により差別化を図る



All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

地域戦略

北米

- **BIG３への拡販を強化**
- **FY30売上高180億円以上**を目指し体制強化

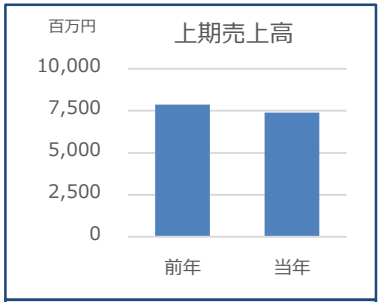
① 事業推進体制の見直しと増強（営業・開発）

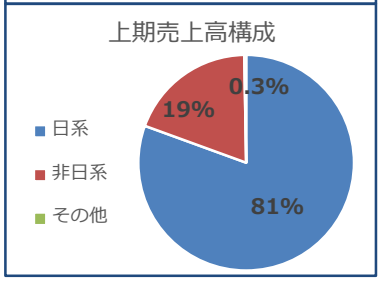
② 地域：南米生産車種への販売スキームの検討

③ 商品：既存採用商品の他車種への横展開の強化、新規領域参入（付加価値商品の訴求）

主要客先の減産により減収減益

- **米国関税影響は現地の回収枠組みに則り全額回収していく**
- 関税対応により事業推進体制の見直しは若干遅れ気味だが、顧客毎の営業体制の整備に着手
- 南米生産車種への採用拡大を目指し、商社とのビジネスチャネル構築を開始、開閉部品を中心にシェア拡大を狙う





中国

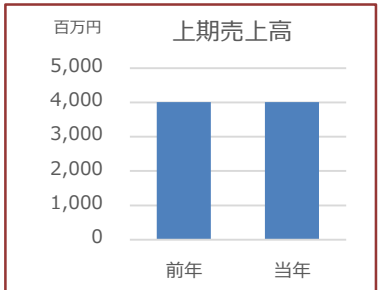
- **中華系OEMへの拡販を強化**
- **FY30売上高110億円以上（うち中華系40億円）**

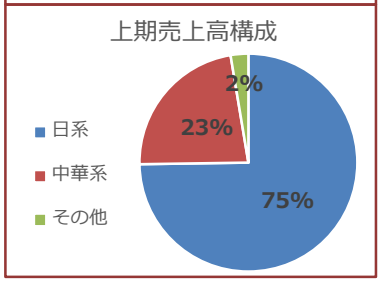
① 体制：中国国内で設計開発から生産まで完結できる体制を構築しスピードと対応力で現地のニーズに応える

② 商品：中国で利益が出せる商品の絞り込み、現地材採用による原価低減

中華系拡販効果が日系減産をカバー、復調の兆し

- **生産再配置及び人員最適化を実施**（特別損失2.5億円を計上）
- **中華系向け上期売上高は前期比４割アップの10億円**
  また、**上期拡販金額のうち半数が非日系向け**となり、ファスナー、開閉機構部品を中心に伸長。中華系からCASE関連商品を受注するなど、非日系への拡販は順調





All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

地域戦略

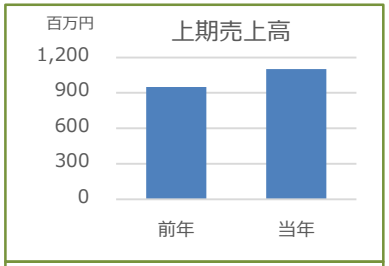
インド

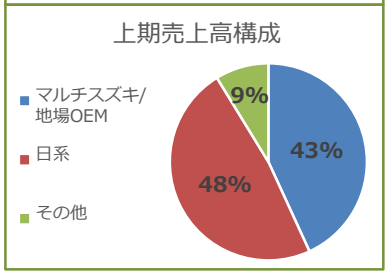
- **成長市場のインドに対する積極投資**
- **将来的な売上高100億円**を目指し体制強化

- マルチスズキ、地場OEMへの拡販体制の強化
- 第２工場設立による生産能力増強
- 部品サイズ拡大による拡販強化、堅調な２輪向け商品の更なる拡販
- R&D体制の増強（既存商品、先行開発共）

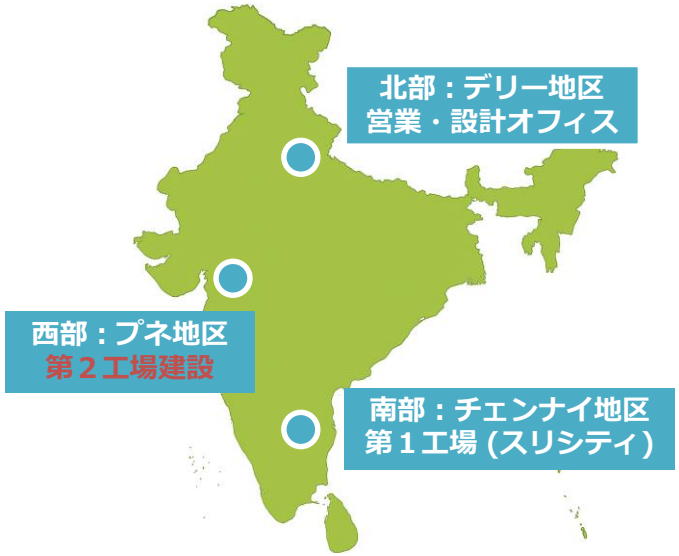
市場成長を追い風に業績好調

- マルチスズキ向けシート関連部品、他OEM向けADAS関連部品、非自動車向けの部品を初受注するなど順調に活動中
- **第２工場をプネ地区に建設中**、FY26稼働開始に向けて活動中

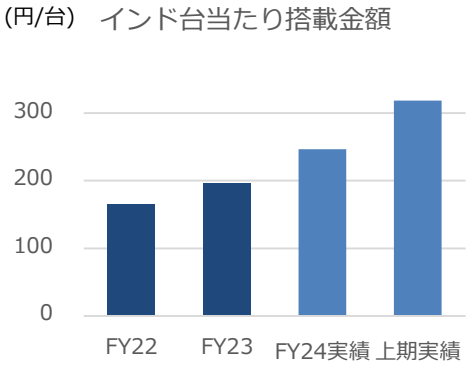




インド自動車産業主要地区と当社体制



- ✓ プネ地区は地場OEMのタタ、マヒンドラ等が集い売上伸長が期待できる地域
- ✓ 第2工場稼働により、全OEMを網羅できる体制を構築し、更なる拡販を目指す

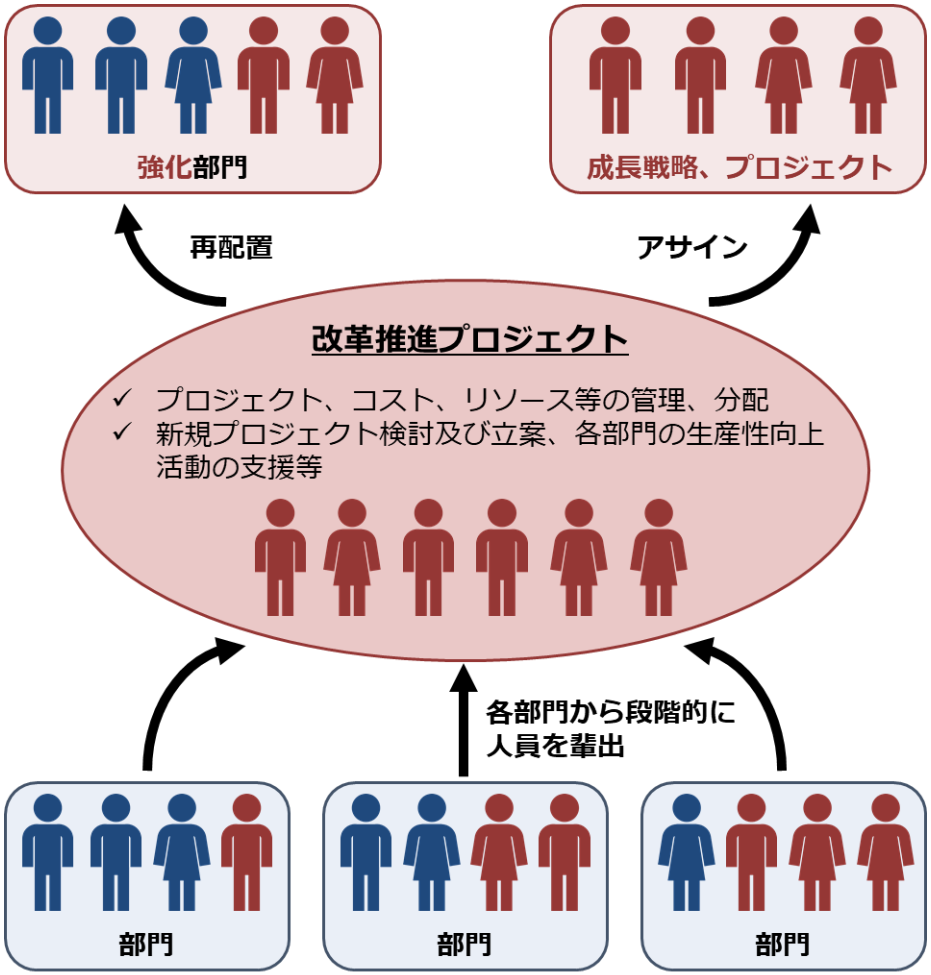


プネ 第２工場　完成イメージ

All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

特別改善活動

✓ 厳しい事業環境の下、成長に向けたトップライン伸長とコスト構造改革を両輪で推し進め収益力を改善すべく、社長直轄の改革推進プロジェクトを発足、６月より活動を本格化



各部門はプロセスをゼロから見直し、目指す姿に向けて生産性を向上させる。

プロジェクトメンバーは各部門から選抜し専任化。全社的な拡販及びコスト削減の活動を統率、推進し、成長戦略の実行を加速させる。

一部は強化部門に再配置。

主な活動事項

- 既存商品、CASE商品、新商品の徹底拡販
  ⇒　バスバープロジェクト発足
- 国内外での生産再配置
- 徹底的な生産性の向上とコスト削減

All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

人と社会を技術でつなぎ、
心弾む未来を実現する

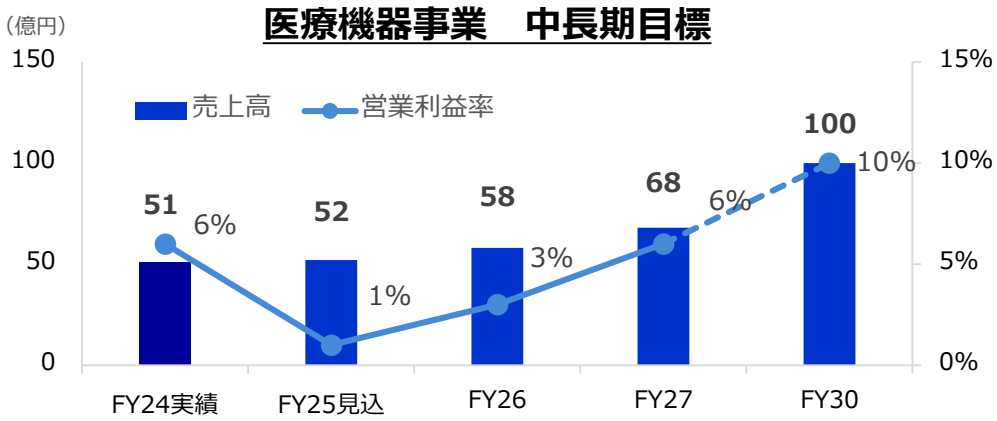
目次

1. 中長期目標／2026年３月期第２四半期決算

2. 医療機器事業

3. 資本政策

医療機器事業　FY25上期決算サマリー



✓ 売上高、営業利益とも計画通り

単位：億円	FY24 上期実績	FY25 上期実績	増減
売上高	26	25	▲1
営業利益	2	0.8	▲1
営業利益率	8.6%	3.3%	▲5.3%

中長期注力製品群の進捗

1．ステント群　<FY30売上目標：新規12億円>

生分解消化管用ステント（食道用）『BDステント』

✓ 上市計画は、行政の保険償還価格算定の関係でFY26第１四半期にずれ込む見込み

✓ ６月、11月の学会共催セミナーでプロモーションを実施

胆管用カバードステント　『カバードバイルラッシュアドバンス』

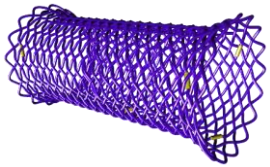
✓ ５月上市（再販）し、売上計画達成見込み。適用拡大に向けて別バージョンを開発中

2．ガイドワイヤ群　<FY30売上目標：新規６億円>

✓ OEMとの海外ビジネス拡大計画を進めており、契約を締結済み

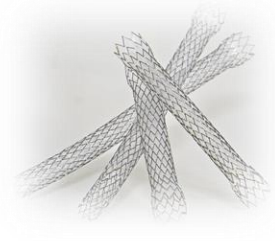
3．コイル群　<FY30売上目標：新規12億円>

✓ 開発品は概ね予定通り進捗、来期販売開始を見込む



BDステント

難治性良性食道狭窄において一定期間従来の治療を受けなくても食事の摂取が可能となる日本初の生分解性食道ステント



胆管用カバードステント

2025年4月 再販開始

腫瘍等で狭くなった胆管を拡張し胆汁排出機能を回復するために埋め込まれる機器。操作性に優れ、ステント表面に内皮細胞の増殖を抑制するためのカバーが施している

胆膵管造影用カニューラ

2025年11月 販売開始

治療の工程を簡略化し、より安全に治療が行える新たな造影用カニューラ

All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

人と社会を技術でつなぎ、
心弾む未来を実現する

目次

1. 中長期目標／2026年３月期第２四半期決算

2. 医療機器事業

3. 資本政策

資本政策

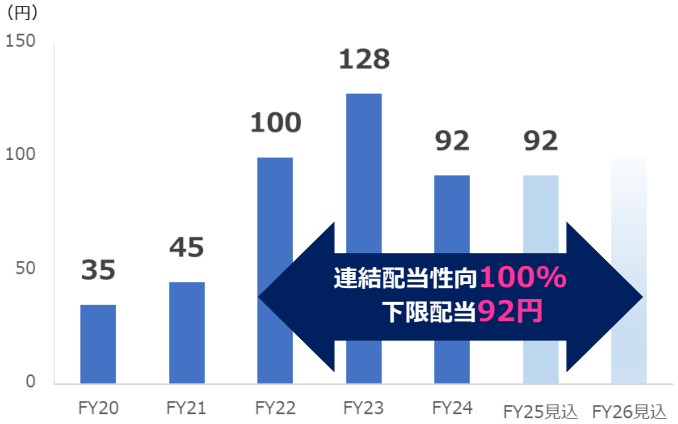
３年累計自己株式取得300億円

- ✓ 2025年５月13日から11月18日で市場買付を実施し、**20億円分**を新たに取得
- ✓ 2024年11月から市場買付で**26億円分**、2025年２月のTOBで**217億円分**を取得しており、上記と併せて**263億円分**を取得済み

資本構成の変化

配当方針

- ✓ FY26まで連結配当性向100%と下限配当92円を継続
- ✓ FY27以降の配当方針は検討中



All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

人と社会を技術でつなぎ、
心弾む未来を実現する

Appendix

新本社／新真岡工場

新本社　＜横浜市保土ケ谷区岩井町＞

- ８月完成
- ９月末より入居開始
- １０月より稼働開始

新本社移転を契機に、ワークスタイル変革や生産性向上を図る

新真岡工場　＜栃木県真岡市松山町＞

- 2023年１２月　第１期工事完成
- 2025年９月　　第２期工事完成

⇒ 新真岡工場完成

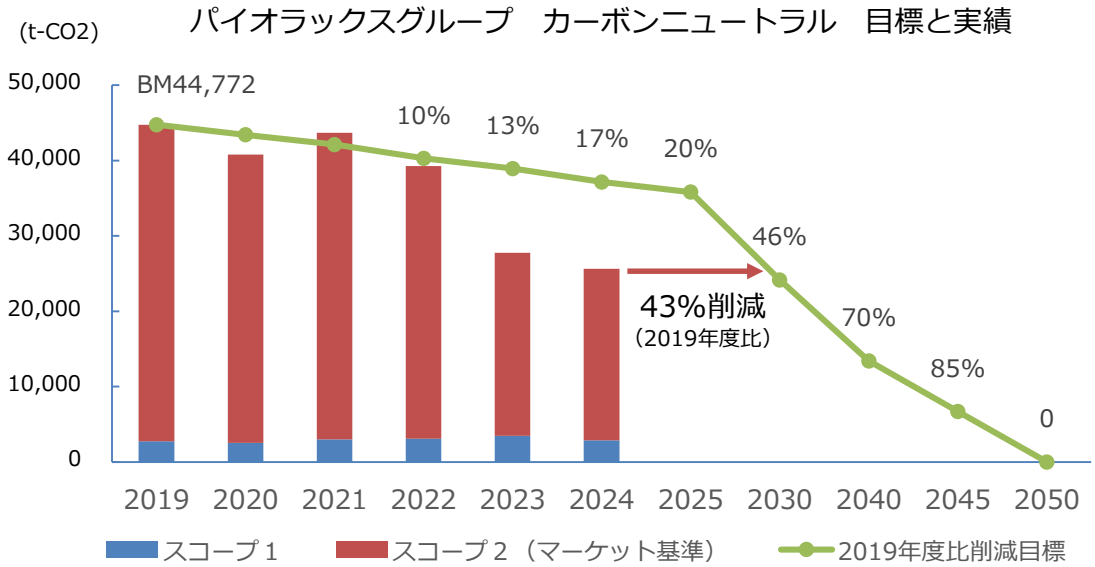
自動化、DX等による生産性の向上、拡販に向けた生産体制の整備を進める

All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

サステナビリティの取り組み

カーボンニュートラル達成状況

✓ 計画を前倒しで達成



主な施策

- 太陽光パネル発電の導入
- 国内生産事業所におけるCO2フリー電力契約への切り替え
- 海外拠点におけるグリーン電力証書によるカーボンオフセットの実施
- スコープ１、スコープ２については、第三者検証を受審

太陽光パネルによる再生可能エネルギーの自給促進

2017年　英国拠点で開始
2020年　タイ拠点で開始
2022年　英国拠点で増設
2023年　米国拠点で第1期工事完了
2024年　新真岡工場、富士工場で開始

米国拠点では2030年までの設置完了を目指した全５期の導入計画を推進

All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.

本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている将来の当社に関する見通しは、
現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。
あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素
を含んでいるため、実際の業績は見通しと大きく異なる
可能性があることをご了承下さい。

All Rights Reserved, Copyright © PIOLAX, INC.